

平成 30 年 7 月の解説（週間天気予報）

【7 月の天候状況】

上旬は、4 日頃にかけて、梅雨前線や台風第 7 号の影響で、東日本の一部を除いて曇りや雨の日が多く、特に沖縄・奄美と西日本、北日本では大雨となった所もありました。5 日から 8 日にかけては、梅雨前線が西日本から東日本付近に停滞し、南から多量の水蒸気が数日間にわたり流れ込んだため、西日本を中心に広範囲にわたる記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など甚大な被害が生じました。この期間に観測された 48 時間降水量は、広島県広島や岐阜県高山などアメダスの 124 地点で観測史上最も多い降水量の記録を更新しました。9 日から 10 日にかけては太平洋高気圧の勢力が強まり、東日本と西日本では晴れた所が多く、九州北部、中国、近畿、東海、北陸の各地方は 9 日頃に、四国地方は 10 日頃に梅雨明けしました（速報値）。一方、台風第 8 号が先島諸島付近を進んだため、沖縄地方では大荒れや大雨となった所がありました。また、6 日から 10 日にかけてはオホーツク海高気圧の影響で、北日本では顕著な低温となった時期もありました。

中旬は、東日本と西日本では勢力の強い太平洋高気圧に覆われたため、晴れて厳しい暑さの日が続き、記録的な高温となりました。一方、北日本では、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日の多い所がありましたが、太平洋高気圧に覆われて晴れた日の多い所もありました。東北南部は 14 日頃、東北北部は 20 日頃に梅雨明けしました（速報値）。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、湿った空気の影響で曇りや雨の日もありました。

下旬は、東日本と西日本は、中旬に引き続き太平洋高気圧に覆われて、晴れて厳しい暑さの日が続き、23 日には埼玉県熊谷で日最高気温が 41.1℃となり、歴代全国 1 位を更新しました。27 日以降は寒冷渦や台風第 12 号の影響で曇りや雨の日があり、大雨や大荒れとなった所もありました。また、日本海側ではフェーン現象のため気温がかなり高くなりました。沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われて概ね晴れましたが、21 日から 23 日にかけては台風第 10 号や熱帯低気圧の影響で大雨となった所がありました。北日本は、高気圧に覆われて晴れた日が多く、旬のはじめと終わりは気温がかなり高くなりました。

月平均気温は、北日本と東日本、西日本でかなり高くなりましたが、沖縄・奄美では低くなりました。月降水量は、北日本日本海側と西日本太平洋側、沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側と東日本および西日本日本海側は平年並でした。月間日照時間は、東日本と西日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側と西日本太平洋側で多かった一方、沖縄・奄美では少なく、北日本太平洋側は平年並でした。

【7 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値^(注)より 17 ポイント高い 83%でした。各地方の適中率は、すべての地方で例年値を上回り、北日本と東日本、九州南部地方を除く西日本で例年値よりも 12～24 ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.5℃小さい 2.0℃で、沖縄地方以外で例年値を下回りました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.3℃小さい 1.4℃で、沖縄地方以外で例年値を下回りました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9 月の週間天気予報の利用にあたって】

8 月に比べて、9 月は低気圧や前線が日本付近を通過しやすくなります。低気圧や前線が通過した後は北からの冷たい空気が流れ込むため、晴れても日中の気温が 8 月ほどには上がりにく

く、季節は夏から秋へと次第に変化します。

また、晴れた日の夜は放射冷却現象により、内陸部を中心に最低気温が下がりやすくなります。このため、日中と夜の気温の差が大きくなります。週間天気予報では、向こう一週間の最高気温と最低気温の予報を行っていますので、日毎の温度変化とともに、一日の間での気温差も確認して体調管理等の参考にして下さい。